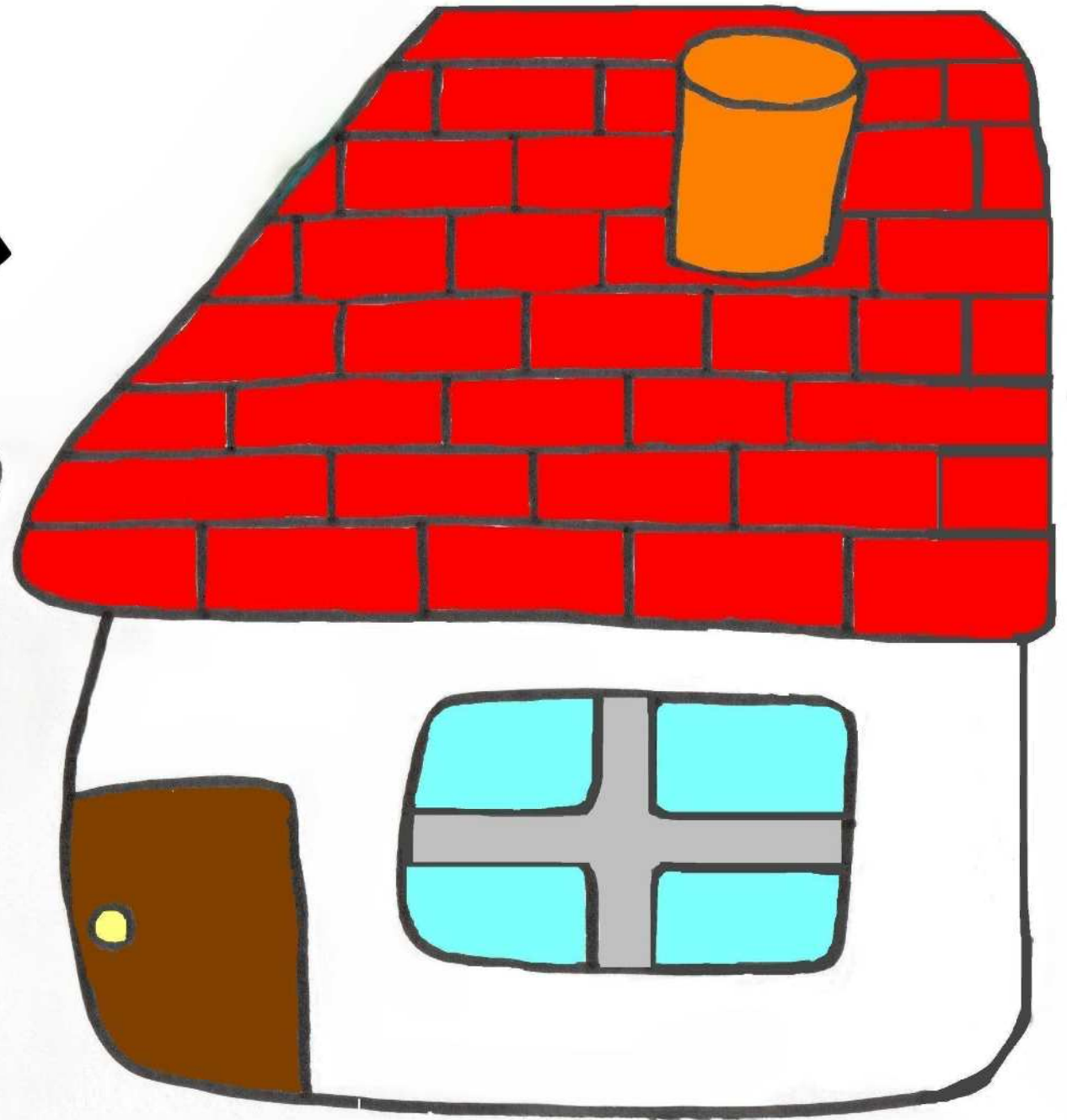
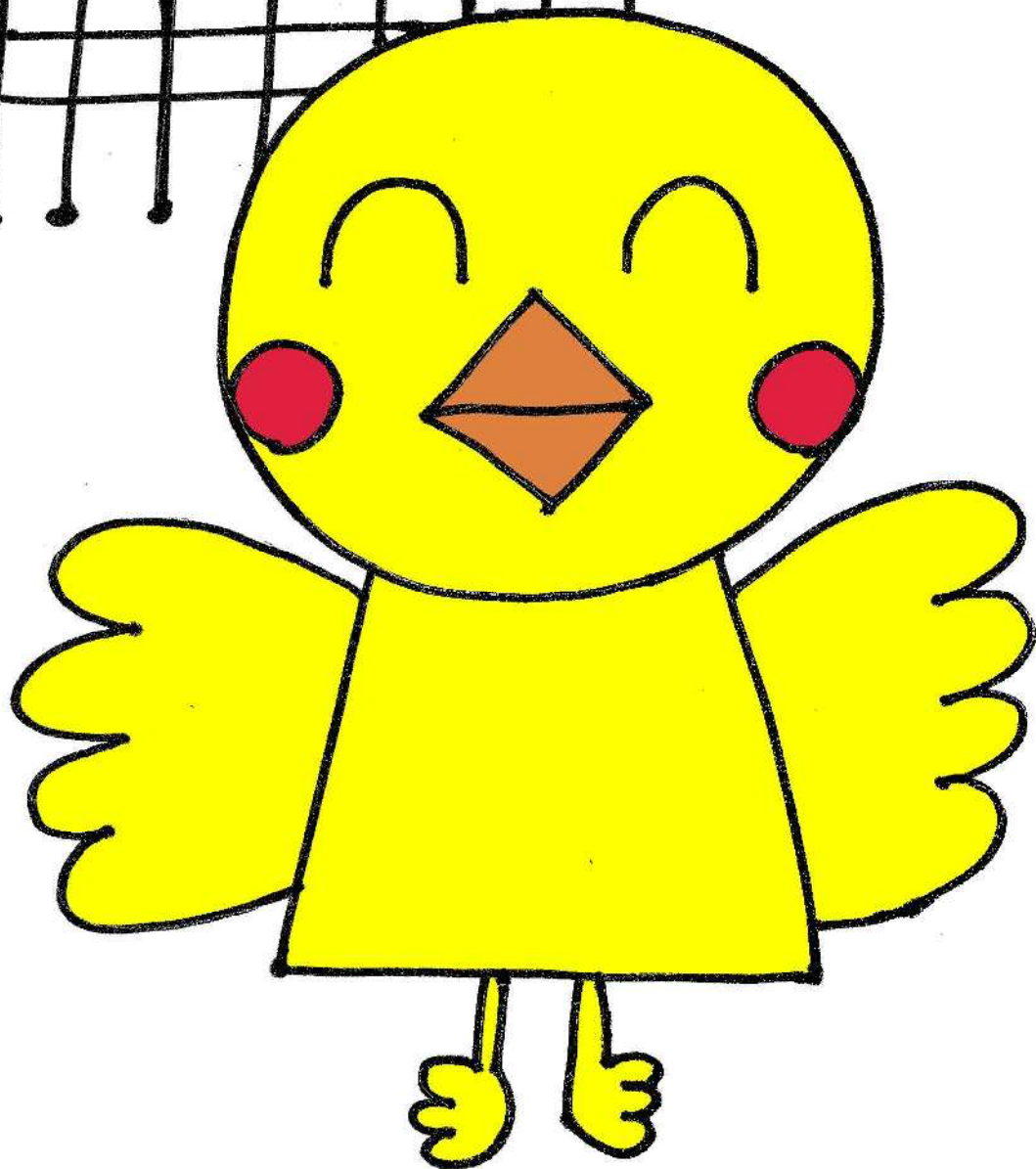
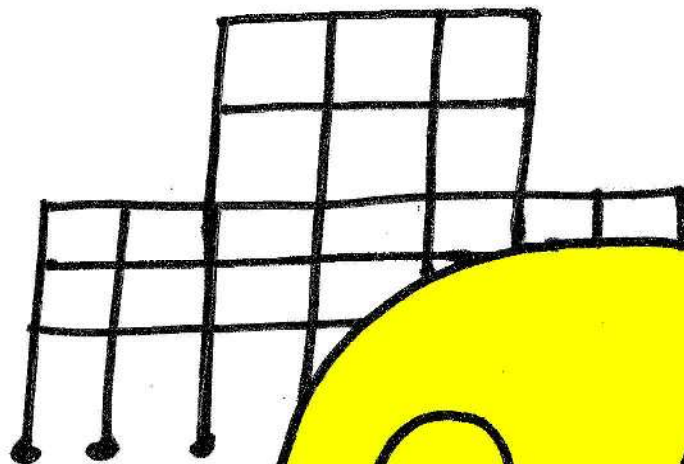
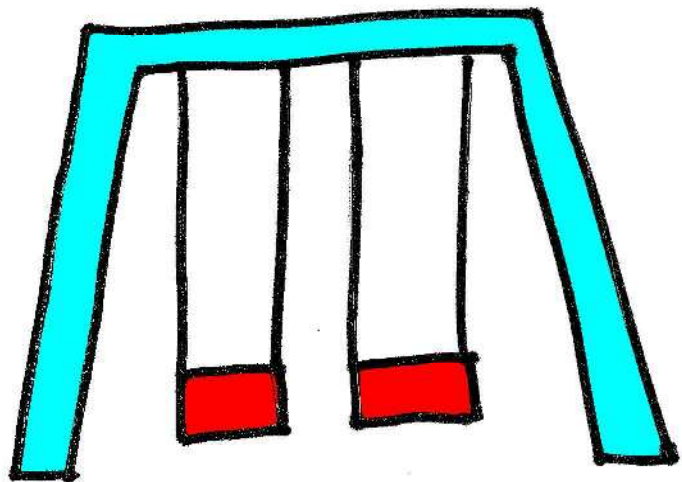


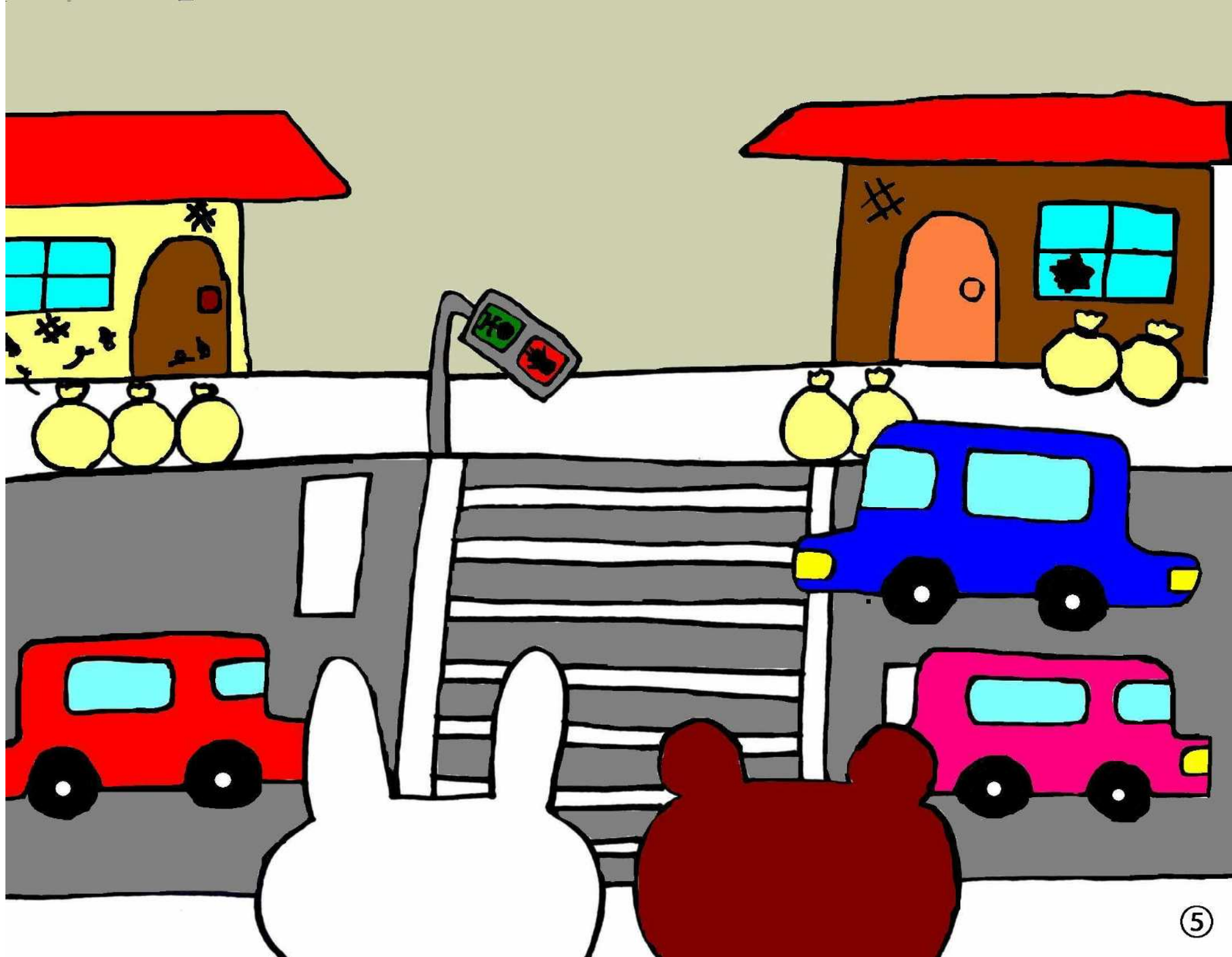
あきくんともみじちゃんの
**くらしと
ぜいきん**







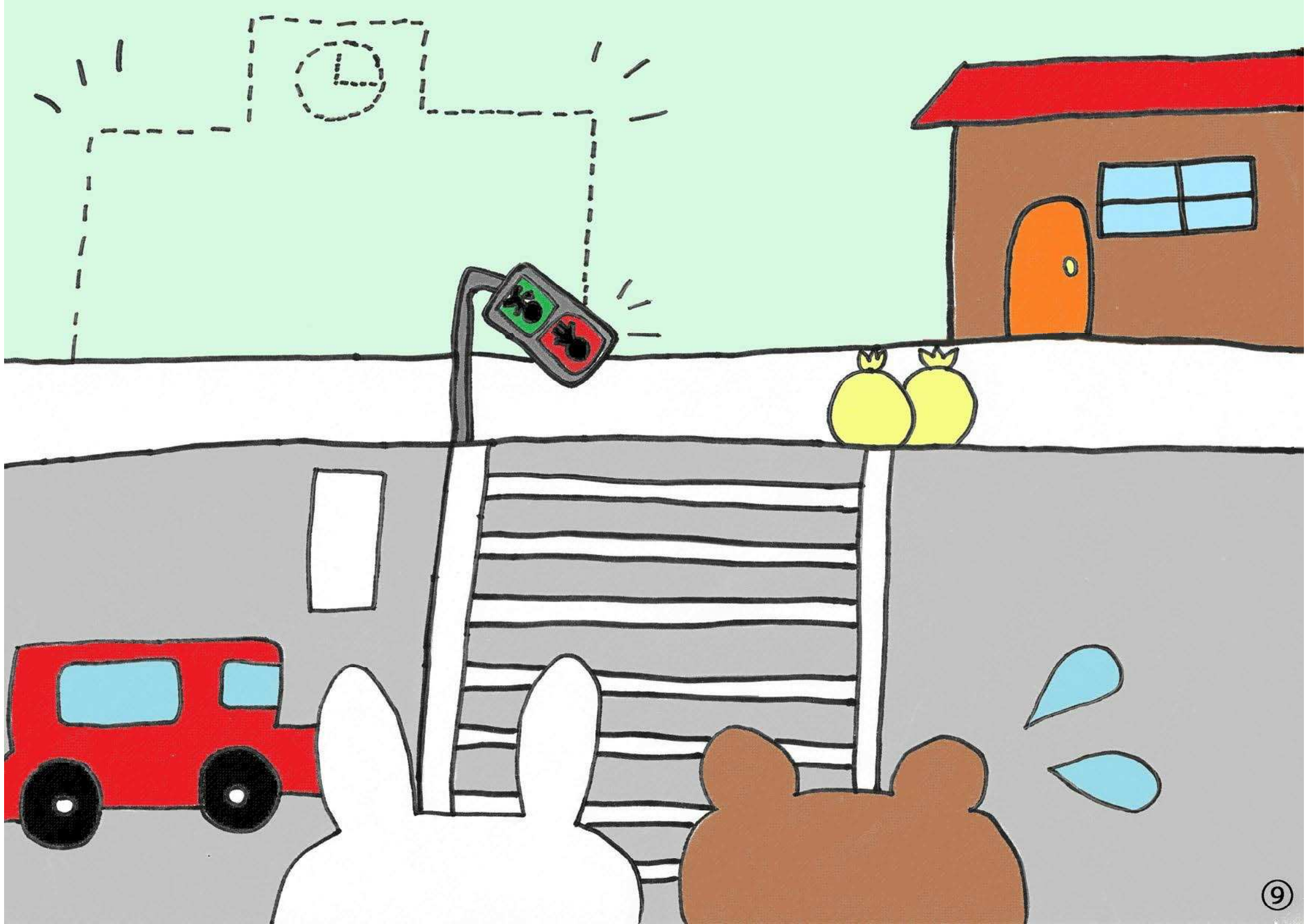




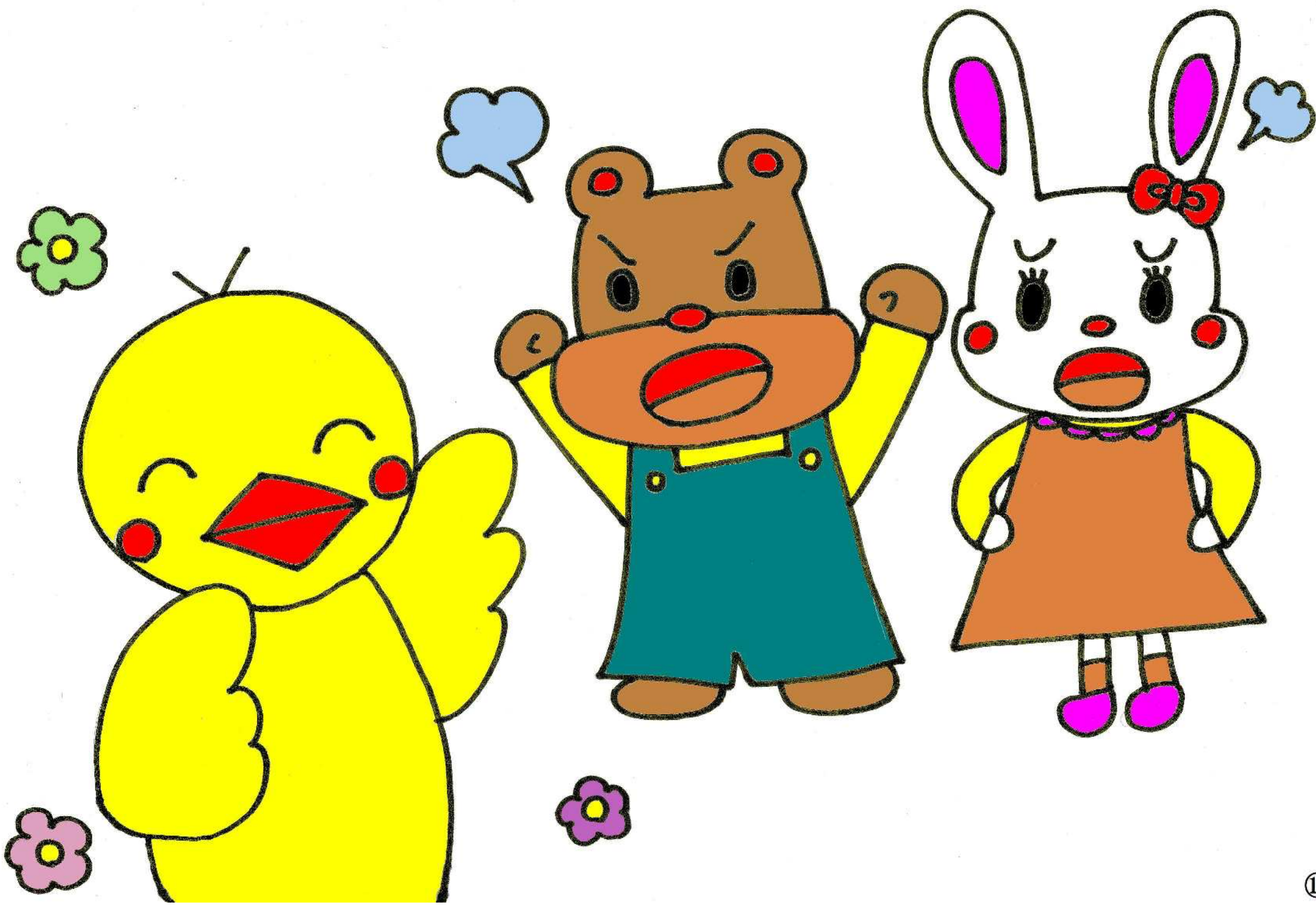


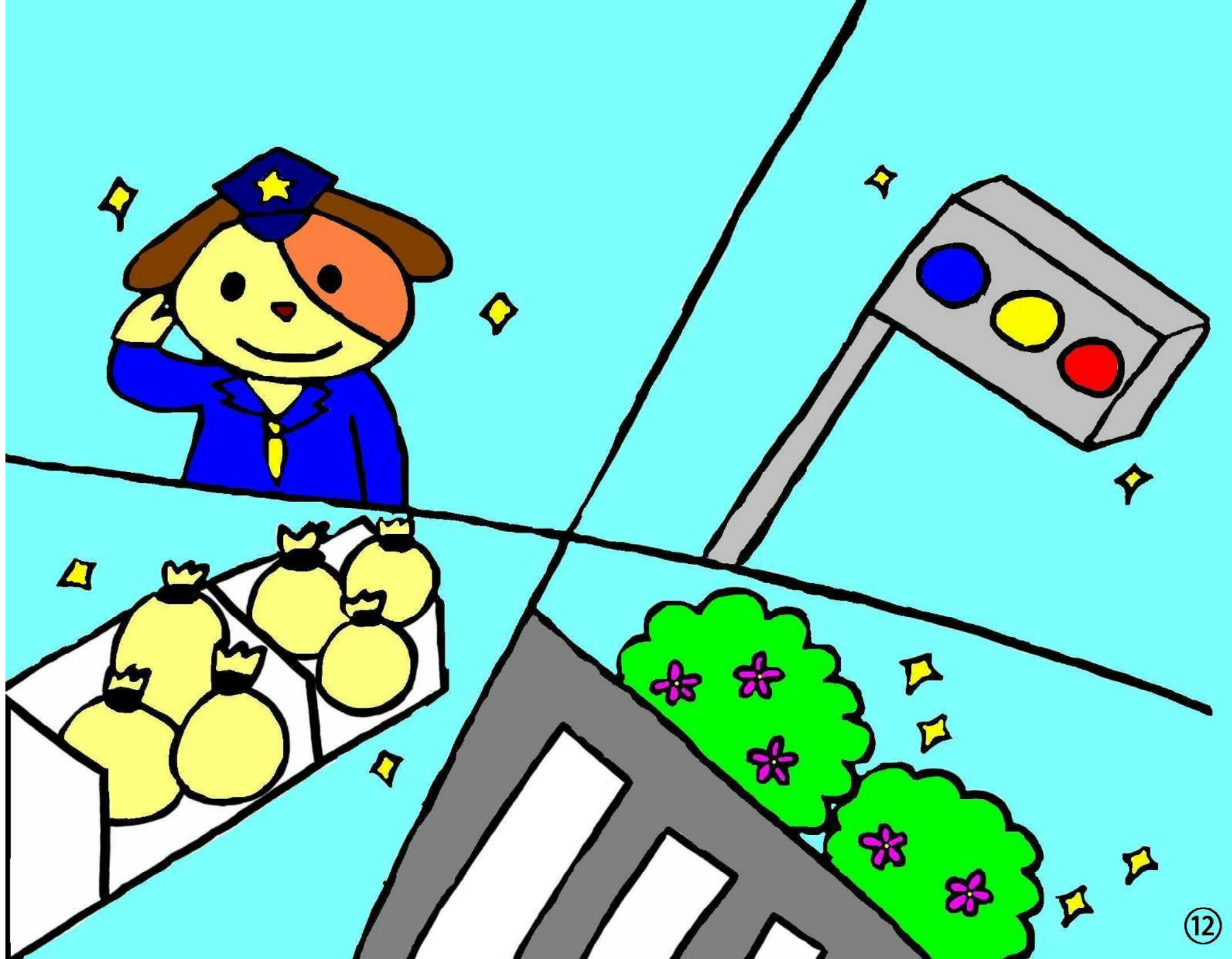


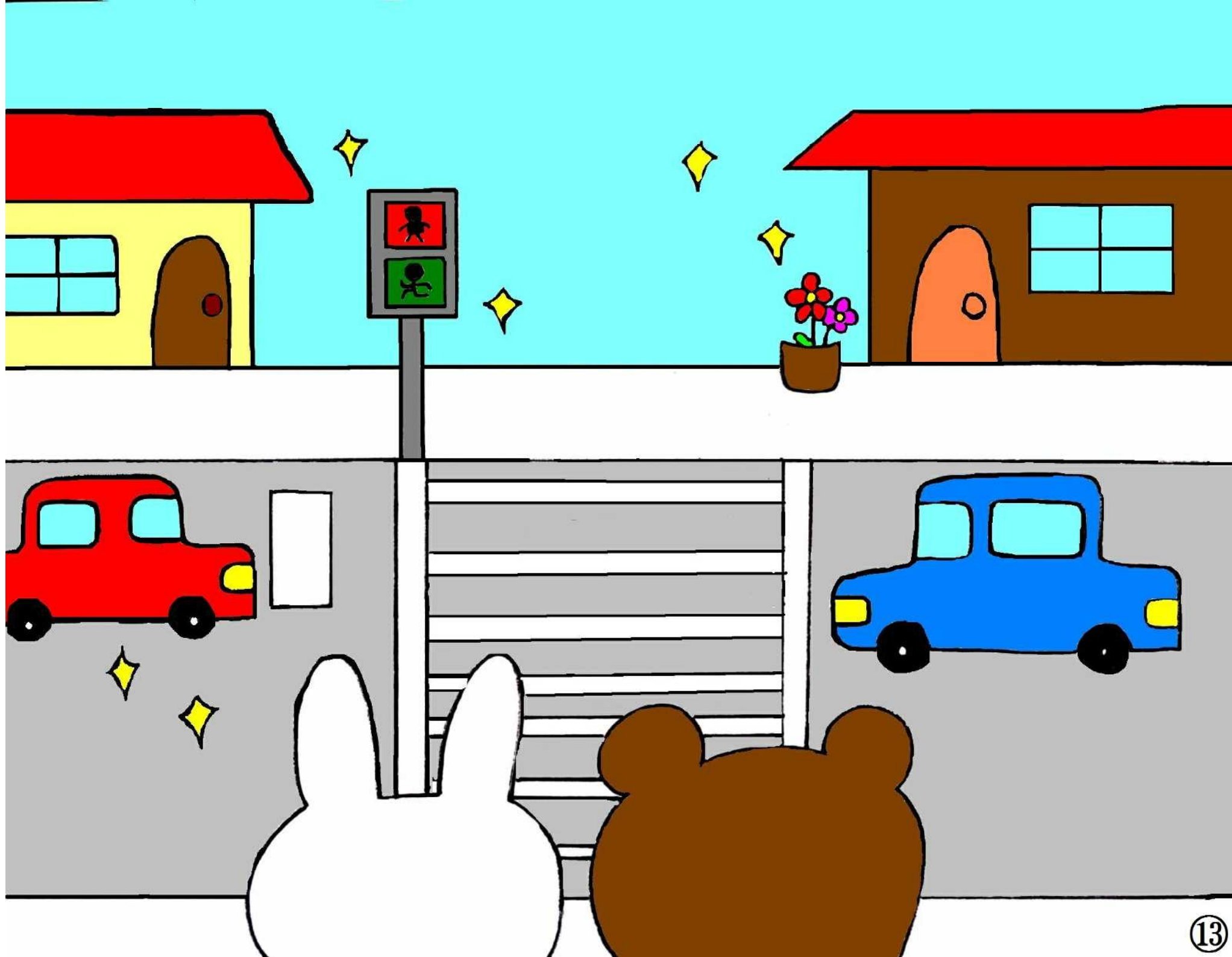












紙芝居「あきくんともみじちゃんのくらしとぜいきん」

作成：安田女子大学児童教育学科 西川ひろ子ゼミ

〔1〕

ナレーター：あるところに、うさぎのもみじとくまのあきがいました。これから、明日の遠足に持って行くお菓子を買いに行くところです。お小遣いの100円玉をしっかりと握りしめ、二人はお店に向かいました。

二人で一緒：「いってきまーす！」

〔2〕

ナレーター：お店にはいろいろなお菓子があります。もみじはそこから100円のお菓子を選んで、お店の人にお金を払おうとしました。

もみじ：「これ下さい。」

店員：「はい、108円です。」

もみじ：「(ビックリして) え、何で100円じゃないの？」

店員：「それは消費税があるからだよ。」

二人で一緒：「(大きな声で) え～、消費税ってなあに？」

店員：「消費税というのはね、国のためにみんなが払うお金のことで税金の一つなんだよ。」

もみじ：「税金？じゃあ、税金があるせいでこのお菓子買えないんだね。」

あき：「(残念そうに) ぼくも、もみじちゃんと同じのが欲しかったのに…。」

〔3〕

ナレーター：好きなお菓子を買うことができなかった二人は、とても残念に思いお店を出ました。

もみじ：「(困った様子で) どうして税金があるのかなあ？」

あき：「(少し怒りながら) 税金なんかなくなっちゃえ！」

ナレーター：二人は気が付くと公園まで歩いていました。

〔4〕

ナレーター：すると…

サリー：「(元気に) 私はこの公園に住んでいる妖精のサリー！ 私が税金のない世界にしてあげるよ。」

ナレーター：小さなひよこが現れました。二人はとても驚きましたが、お菓子を買えることが嬉しくて大喜びしました。

あき：「(驚いて) え、本当！？」

もみじ：「(嬉しそうに) これで100円でもお菓子を買えるね。やったー！」

ナレーター：税金のない世界になりました。さて、どうなったのでしょうか？

〔5〕

二人で一緒 : 「(元気に) いってきまーす！」
あき : 「(不思議そうに) あれれ？なんだか変じゃない？」
ナレーター : いつもの町がゴミだらけ。橋や道路もぐちゃぐちゃで、電柱も倒れています。
もみじ : 「(悲しそうに) どうしてこんなことになったの？」
あき : 「サリーに助けてもらおう！」

〔6〕

ナレーター : 二人は公園に向かいましたが、どこを探しても公園は見つかりません。
もみじ : 「(困った様子で) あれー？どうしてないのかな？」
あき : 「あ、あそこにお巡りさんがいるよ。聞いてみよう。」
ナレーター : 2人はお巡りさんに公園までの行き方を聞くことにしました。
あき : 「(大きな声で呼びかけるように) お巡りさーん！」

〔7〕

お巡りさん : 「どうしたの？」
あき : 「この辺に公園があったと思うんだけど、どこにいったの？」
お巡りさん : 「連れてって欲しいの？それじゃあ、(少し間をおいて) 1,000 円払ってもらおうよ。」
二人で一緒 : 「(ビックリした大きな声で) 高——い！！」
もみじ : 「(悲しそうに) お金がいるの？」
お巡りさん : 「(当然のように、テキパキと回答する) もちろんさ。道案内は 1,000 円、パトロールは 2,000 円。泥棒を捕まえるのは 10 万円です。助けてほしいなら、お金を払うのは当たり前だよ。」

〔8〕

おばあさん : 「(寂しそうに) 税金があった頃は、お巡りさんにお金を払うことなんてなかったのにねえ。」
ナレーター : そばを歩いていた猫のおばあさんは、悲しそうに言いました。
もみじ : 「(少し大きな声で) そんなに高いお金なんて持ってないよ！」
あき : 「(開き直った大きい声で) もういい！ぼくたちで探すよ！」

〔9〕

ナレーター : もみじとあきは、公園を探しに走り出しました。すると、また町の様子がおかしいことに気が付きました。
もみじ : 「(ビックリした声で) あれ？私たちの小学校がない！」
あき : 「(さらにビックリした声で) 信号機も動いてないよ！」
ナレーター : (寂しそうに) 二人はすっかり変わり果ててしまった町を見て悲しくなってきました。

〔10〕

ねこの子 : 「(悲しそうに) えーん。えーん。」

ナレーター : ねこの女の子が泣いています。

もみじ : 「(やさしい声で) ねえねえ、どうしたの？」

ねこの子 : 「(涙をこらえながら) お家に帰りたいんだけど、車がいっぱい通ってて、渡れないの。」

ナレーター : 道路は信号機が動いていないのでずっと車が走っています。とても危なくて横断歩道を渡ることもできません。

あき : 「(決意したように大きな声で) やっぱり、早くサリーを探さなくちゃ！」

もみじ : 「(少し焦りながら) もうー、一体どこにいるの？」

〔11〕

ナレーター : そこに、やっとサリーが現れました。

サリー : 「(明るい声で) 税金のない世界はどうだった？お菓子がたくさん買えたでしょ？」

もみじ : 「(少し怒った声で) それどころじゃないよ！」

あき : 「(大きな声で、ハッキリと話し、怒った様子で) 町はゴミだらけだし、公園もないし、お巡りさんは助けてくれないし、ひどいよ！」

もみじ : 「(大きな声でお願いするように) 元の世界に戻してよ！」

〔12〕

サリー : 「(満足した様子で) やっと税金の大切さが分かったようだね。税金は町をきれいにしたり、道路を修理したり、お巡りさんがみんなの安全を守ってくれたりするために使われる大切なものなんだよ。」

もみじ : 「(驚いた様子で) そうだったんだ。」

あき : 「(納得した様子で) 税金って大切だったんだね。」

サリー : 「じゃあ、税金のある世界に戻してあげるよ。」

ナレーター : さて、本当に税金のある世界に戻ったのでしょうか？

〔13〕

ナレーター : 朝になり、二人はいつものように家を出ました。

二人で一緒 : 「(元気な明るい声で) いってきまーす！」

もみじ : 「(嬉しそうな大きな声で) あ！ゴミがなくなってる！」

あき : 「(嬉しそうな声で) 道路も橋もきれいになってるよ！」

二人で一緒 : 「(明るく元気に) やっぱり、税金のある世界っていいね！！」

ナレーター : 町は元通りきれいになりました。もみじとあきは、税金が自分たちの生活のいろいろなところで使われていることを知れたみたいですね。

今度から 100 円のお菓子を買うときは、お母さんに 108 円ちょうだいってお願いしてみようね。